

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.53 2020.3.4
TEL71-2466

豊科公民館「楽しい菊作り講座」

弥彦菊まつり見学

豊科公民館は「楽しい菊作り講座」の第1回を4月25日に開講し、その後5回講座を行った。初めて挑戦する人を含め14人が講師の鈴木輝彦さんの指導の下、熱心に受講した。ベテランの受講生もいて、お互いに生育状況を見合ったり教え合ったりして、初心者も安心して学ぶことができる。大菊三本仕立てで特に大切な摘心については、丁寧に実技指導を受け作業したので、どの受講生も秋には大輪の菊を咲かせることができた。



第3回鉢上げと摘芯の実習

豊科地域文化祭の菊花展には3人の受講生が丹精込めて育てた菊を出品し、優秀賞に選ばれたり、初めての出品で入賞したりして頑張りを認めてもらうことができた。

講座の締めくくりは先進地の見学である。本年度は質・出品品目において全国随一といわれている



新潟県の弥彦菊まつりに、講座受講生と文化祭の菊花展実行委員の希望者18人が出かけた。

会場である弥彦神社の参道の両側に大輪菊や古典菊など、さまざまな菊が並び、同行の菊作りの先輩に解説をしてもらいながらゆっくりと菊花の見学をした。約3万本の挿芽と500鉢の菊で造園された大風景花壇、1株から301輪以上の大輪菊を咲かせる大数咲、大小の懸崖菊、工夫を凝らした盆栽菊など、菊まつりを堪能することができた。数の多さではとてもかなわな

いが、豊科の菊花展も花の素晴らしさでは引けを取らないのではないかと話題になり、来年はこんな菊を育ててみたいと夢が膨らみ、有意義な見学だった。



穂高公民館「里山トレッキング講座」

秋の浅川山・冷沢・信濃坂 トレッキングと自然観察会

10月3日、穂高地域西の浅川山付近から信濃坂までのトレッキングと自然観察会を実施した。現在の県道槍ヶ岳矢村線開通前は、満願寺北方の北ノ沢を登り大峠を越え、中房川支流の冷沢沿いに信濃坂まで下るのが中房へのルートだった。しかし今は笹や樹木に覆われて荒れ果て、昔のルートも大峠にあった茶屋の場所もほとんど分からなくなっている。昔のルートに思いをはせつつ、秋の自然や風景を味わうことを趣旨に参加者を募集したところ66人もの申し込みがあり、抽選で選ばれた16人が参加した。



好天に恵まれた朝、穂高会館に集合。2台のワゴン車に乗り満願寺西方の林道北沢線を通り浅川山中腹で下車。講師の

自然観察インストラクター腰原正己さんから、植物を中心に解説をしていたきながらゆっくりと歩き始める。中にはメモをとる熱心な方もいた。歩き始めて20分ほど後、参加者から感動の声が上がる。西の展望が開けて直前に大きく常



念岳や横連岳がくつきりと現れたからだ。同行した信州登山案内人の秋田敬典さんから、山の説明を受ける。登り切った標高約1700以上の林道は平たんとなり眺望もよく、浅間山を臨むことができた。

休憩後、大峠付近を通過すると、信濃坂へ向かう冷沢沿いの下り道となる。燕岳が間近に見え、目を凝らすと燕山荘も見える。林道の途中で昼食休憩後、冷沢の上流付近を通過すると、地質は花こう岩地帯に入り、大きな崖崩れが何か所も道をふさぎ、車の通行はとうてい無理。ほとんど人が通らない道には背丈より高い草木が多くなり、歩行にも苦労する。西股の沢付近では南側面から見る絶景の有明山を眺めながら午後3時30分頃、最終地点である紅葉が美しい信濃坂発電所に到着した。



参加者一同、秋の自然と風景を満喫した一日となった。

グループ紹介

フラワーアレンジメント同好会(豊科)

フラワーアレンジメント同好会は、平成4(1992)年に豊科公民館で講座が開かれ、10回の講座が終了した後に発足した。現在、会員は50代から80代の女性10人である。毎月第2・第4火曜日に活動している。

講師は同好会代表の佐川とも子さんと、フラワーアレンジの指導と花材の選定や調達を行っている。佐川さんは生花中心に30年以上花に関わっており、アーティフィシャルフラワー、プリザーブドフラワー、ドライフラワーなどのアレンジも手掛けてきた。



会では季節に応じたテーマのもとにアレンジをしており、12月24日は「お正月の花」がテーマだった。花材は、若松・梅・椿・ピンポンマム・シンビジウム・デレンファレとお正月にふさわしく豪華であった。最初に佐川さんが見本のアレンジをしてポイントを解説した後、会員は講師の指導を仰ぎながら、梅



や松などを自分の好きなように切り、吸水性スポンジに挿していった。この日のポイントは梅の枝ぶりや若松の長さをどう配置するかであり、最初の構想が重要であるとのことだった。自分の感性で形を整えることは難しいが、生け花と違い自由にアレンジできる良さがある。みんな慣れた手つきで、20分ほどで自分の作品を完成させていた。水の管理をしっかり行うと1カ月ほど持つとの事である。活動は終始なごやかなムードの中で行われ、年に数回懇親会を開いて親睦を深めている。佐川さんの作品は、毎回、豊科公民館の玄関に飾られ、来館者の心を癒してくれる。

豊科地域文化祭には毎年出展し、華やかな花々で来場者の目を楽ませている。

同好会では随時、会員を募集している。

○問い合わせ先

代表 佐川 とも子

080・6936・1205

連絡員 赤羽 敦子

090・2328・3987

私は一生懸命



塚田啓子さん(三郷)

「好きなことでみんなの健康と笑顔に寄り添って地域貢献したい」と「ジュニアダンスうんどうおひさま隊」の指導者を務め、各地の公民館で健康指導士として3歳から93歳までの幅広い年代の人たちと楽しく体を動かす活動をしている。NPO法人日本ダンスうんどう協会の公認指導員など数々の資格を持ち「指導者として私自身が健康で美しさを保たないと」と週3回、スポーツジムでトレーニングを行っている。

松本市の出身で、小学4年生の時に父親の転勤で長野市へ転居、



長野西高校を経て東京の看護学校へ進学、再び長野市内へ戻り36年間の看護師勤務では看護部長まで務めた。退職後、

三郷に家を見て、現在はご主人と2人暮らし。息子さんは医師の道を選んで、千葉県内の病院に勤めている。平成27(2015)年秋の叙勲で看護業務功労者として瑞宝単光章を授章した。皇居に参内し、天皇陛下に拝謁した時は「一生に一度の経験、とっても緊張したのよ」と、はにかんでいた。

看護学校時代に競技ダンス部に所属、社会人になっても継続し、そこでご主人と出会ったそう。ずっと続けてきた大好きなダンスで「みんなを健康で笑顔にしたい」と、おひさま隊を作った子どもたちと練習を重ねており、昨年から大人も参加している。



「ダンスは10種類、サンバやチャチャチャ、ワルツから始めて、子どもたちはすぐ覚えるの」と話す。

好きな言葉は「アイ・ラブ・チャレンジ」一度はあきらめかけた英会話の習得に再チャレンジ中だ。「私は一生上り坂。常念岳を上り続けて、最後は天使になって空に飛んでいくの」と常に前に進むポジティブシンキングの持ち主。笑顔がとてすてきで、今後ますますの活躍が期待される。

古きを尋ねて

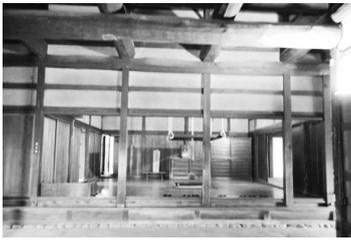
③4 曾根原家住宅 (穂高・国指定重要文化財)



左が家人用、右が客人用の入り口

安曇野市には3つの国指定重要文化財(国宝に次ぎ重要な有形文化財)がある。松尾寺本堂、荻原祿山作の北條虎吉像、曾根原家住宅である。

曾根原家住宅は、江戸時代に松本藩松川組新屋村の庄屋を代々つとめた曾根原家の住宅である。建築は17世紀中頃と推定され、中信地区の豪農の家に多い、平屋・緩い勾配の切り妻屋根・板葺き屋根・妻入り(但し曾根原家は平入り)を特徴とする「本棟造り」の草創期の姿を残す極めて貴重な建築物である。



囲炉裏のある「おえ」

建物の内部には、おえと言われる囲炉裏のある部屋を中心に既・土間・下座敷・上座敷・上おえ・奥部屋・小座敷・納戸がある。座敷は畳敷き、他は板敷きである。屋根が板葺き石置屋根なのは、当時は釘が貴重品だったからで、細長い板を何枚も重ねた屋根板が剥がれないように石を置いた。

庄屋の屋敷らしいのは、家が大きくて立派なこと、家人の使用する入口とは別に松本藩の役人を迎える時に使用しただろう入口(式台)があること、上座敷と下座敷があり一般の部屋と建築材や仕上げが違ふこと、既に2頭の馬を飼い、既の上は「下男部屋」と呼ばれる部屋があることなどである。



下座敷(左)、上座敷(右)

新屋村は、16世紀末までは旧古厩郷に属していたが、17世紀初めに松本藩に組制度が実施された時に「松本藩松川組新屋村」として独立している。寛永19(1642)年の検地帳では、新屋村の石高は約574石で、明治7(1874)年の戸数は105戸、人口は535人となっている。

(参考・穂高町誌他)

地区公民館だより

荻原地区公民館(明科)

明科地域の北側に位置する荻原地区。国道19号と犀川が通る東西を山に囲まれた地に250世帯661人が暮らしている。荻原地区公民館では世代を超えた交流に重点を置き、さまざまな事業を展開している。

5月の第3土曜日に行う桜の木の手入れと植樹は、平成8(1996)年5月に当時の明科町から苗木の配給を受けたことに始まる。みんなで荻原山麓線を桜並木にしようと、700坪の区間に八重桜や枝垂桜を植樹し、毎年、下草刈りなどの管理をして現在まで続いている。親子で桜の苗木を植えたり作業をした後、懇親を兼ねて焼肉会を行っている。



8月15日にはお盆の行事、夏祭りが開催される。午前中はソフトボール、マレットゴルフ大会が、帰省した家族を交えて和気あいあいと行われる。午後3時頃からは、ソフトボ

ールクラブの協力、水路をせき止めニジマスを放し、小学生による魚のつかみ取りが行われる。最初はなかなか捕まえられない子どもたちも、やがてコツをつかみ、びしょぬれになりながら、2匹、3匹と捕まえ笑顔に変わる。公民館に持ち帰った魚はソフトボールクラブとPTAの人たちでさばき焼いて慰労会の席でおいしくいただく。夏祭りのスーパードールすくい、ビンゴゲーム、射的なども子どもたちの楽しみだ。



9月に行う敬老会では、小学生の合唱や舞踊、カラオケなどをしてお祝いする。10月にはマレットゴルフ大会が開かれ、秋祭りでは、みんなで力をあわせてお船を作る。11月には人権学習講座、公民館ふれあい行事が行われる。ふれあい行事では里山整備実施委員会とPTA、小学生たちが紅葉の里山を歩き、木工教室を楽しんだ後、公民館役員が用意した昼食で交流を深める。2月は卓球大会を開くなど、健康づくりにも積極的に取り組んでいる。

毎月第4水曜日に編集委員会を行い、地域の出来事やお知らせを掲載した公民館だより「おぎわら」を作成し、毎月全戸配布している。(荻原地区公民館長 小林与志雄)



ぼたか
絵手紙教室

穂高公民館は1月10日、全10回の「絵手紙教室」の9回目を開催した。講師は水彩と水墨画の画家である秋山美峰さんで、受講者14人中の8人が参加した。

教室では、構図の取り方、輪郭の取り方、色彩の強弱、立体感、みずみずしさの表現、花びらは優雅に、墨の使い方(ぼかし)、四季風景の表現、祝いの表現、日常生活の表現をテーマに指導された。また、秋山さんは、絵を小さめにして手紙の文字数を多くすること、安曇野の良さや美しさを表現すること、もらって喜ばれることを大事にすること、なども指導していた。

講師の説明に聴き入った後は、全員が一心不乱に絵筆を動かした。静寂の時とともに、指導の成果が見られる淡く繊細で美しい日本画風の作品が次々にできあがった。



とよしな
**親子ふれあい塾
 消しゴムはんこづくり**



豊科公民館は12月14日、親子ふれあい塾「消しゴムはんこづくり」を開催した。始めに、講師のやぎきなおみさん(山のはんこや「のら猫工房」)から作り方の見本を

あかしな
ポッチャ教室

12月3日と10日に明科公民館講堂でポッチャ講座が開催された。ポッチャは、重度脳性まひや四肢重度機能障がいがある方のために考案されたスポーツで「東京パラリンピック2020」の競技種目にもなっている。参加者は両日合わせて50人ほどで、明科地域スポーツ推進委員の

ほりがね
おとこの酒肴講座

堀金公民館は12月21日、調理実習棟で、調理師の高橋清美さんを講師に本年度第4回目の「おとこの酒肴講座」を開催し、60代から70代の14人が参加した。フライドチキン&ポテト、ニシンの昆布巻、パイシート包み焼きの3種類の酒肴とエゴマみその焼きむすび、シヨコラケーキを作っ



た。慣れた手つきで包丁を扱う大田明さんは「早速、家に帰って作ってみたい」と熱心に取り組んでいた。完成後、各自持参した飲み物を酌み交わしながら、出来立ての酒肴を味わい出来栄を確認しあった。

示してもらい、5組10人の参加者が思い思いのデザインではんこを作った。消しゴムはんこは材質が柔らかく作業がしやすいため、子どもでも簡単に作る事ができ、あつという間にいくつものかわいらしいはんこが出来上がった。年賀状の作成時期でもあり、干支のネズミ、縁起物のダルマ、新年のあいさつの文字などを親子で楽しく制作した。

方たちの指導の下、グループ対抗でゲームを行った。記者も初めて体験したが、障がいの有無に関わらず楽しめ、仲間と戦略を練り、体より頭を使う競技で、幅広い年代で楽しめると感じた。多くの人にぜひ体験して欲しい。



みさと
**三郷まなび隊
 プログラミング教室**

12月14日に三郷公民館で小学4〜6年生を対象にプログラミング教室が開催された。12人の参加者はペアを組んでプログラミングを進めた。具体的には「スクラッチ」というプログラミングツールを使って、簡単なゲーム(シューティングゲーム)作りを行った。

講師のBee Treeプログラミング教室代表の濱田康さんの説明を真剣な表情で聞き、隣同士で力を合わせながら、どの組も自分たちらしいゲームに仕上げる事ができた。

参加した4年生の「自分の力でプログラミングをして良いゲームができて、とても楽しかった」との感想から、教室の満足感が感じ取れた。



樺 各地域ごとに公民館の事業は特色があり、合併から11年がたった今も、旧町村時代の名残を色濃く留めている。居住地域外で開催される行事や講座へ参加してみることが、ぜひお勧めしたい。(K・T)